

**「建築技術」短期連載 第①回**  
**SABTEC 機械式定着工法 SS3 組込プログラム**  
**プログラム概要**

近年、鉄筋の太径化に伴い、機械式定着工法が高さ 60m 以下の中高層建物で採用が多くなっている。これらの背景を踏まえ、当機構では、合理的な接合部配筋詳細設計施工の実現に向け、『SABTEC 機械式定着工法 設計指針(2014 年)』および『SABTEC 機械式定着工法 デザインマニュアル(2014 年)』を発刊し、機械式定着工法の普及促進に努めてきた。

一方、建築構造設計は一貫構造計算プログラムなくして今や成立せず、従来、設計建物の機械式定着工法の検定計算に多くの労力を必要とし、この点が機械式定着工法の普及を妨げてきた。

これらより、当機構では、SABTEC 機械式定着工法 BUILD. 一貫IV+組込プログラム(2012 年 12 月)を構造ソフト(株)に委託して開発し、機械式定着工法のさらなる普及促進のために、SABTEC 技術評価取得 6 社の機械式定着工法を適用対象とした SS3 組込プログラムをユニオンシステム(株)に委託して開発した。

第 1 回の本稿はプログラム概要、第 2 回は試設計建物の梁、柱主筋検定例について紹介する。

(注記)

本稿は、「建築技術」2015 年 12 月号に掲載された短期連載 第 1 回原稿であり、(株)建築技術の了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。